

事務事業名	子供たちのアグリ体験学習推進事業			担当	産業環境部 農政課 農政係			
政策名	E	地域と産業が調和する活力あるまちづくり			電話番号	0285 - 83 - 8137		
施策名	1	農業の振興			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	子供たちのアグリ体験学習推進事業費要綱					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成15 年度～）		
予算科目	1. 一般会計	6. 農林水産業費	1 農業費	3 農業振興費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	真岡市食育推進計画における教育ファームの一環として、市内小学校での農作業体験を支援し、食と農業の理解を深めるため、市単独で一校あたり45,000円を限度として助成する。 市内小学校18校を対象に、教育ファームの一環として農作業体験に要した費用の一部（45,000円）を限度として助成する。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 23年度実績 交付金交付事務 市 各小学校 24年度計画 23年度と同様	⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移 名称 単位 20年度(実績) 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(実績) 24年度(見込) ア 交付額 千円 750 850 810 810 810 イ ウ エ オ
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市内小学校児童数 市内小学校	⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移 名称 単位 20年度(実績) 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(実績) 24年度(見込) ア 小学校児童数 人 3,900 4,840 4,808 4,777 4,790 イ 小学校数 校 15 18 18 18 18 ウ エ オ
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 明日を担う子どもたちが農作業の体験等をおして「作物を育てる楽しさ」、「収穫の喜び」、「生きるものの力」を学び食と農業に対する理解を深める。	⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移 名称 単位 20年度(実績) 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(実績) 24年度(見込) ア 体験児童数 人 2,525 2,910 3,010 3,413 3,421 イ 実施小学校数 校 15 17 18 18 18 ウ エ オ
④ 結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 食と農業の理解促進	⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移 名称 単位 20年度(実績) 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(実績) 24年度(見込) ア 農業を理解した人数(体験児童数の率) % 64.7 60.6 62.6 71.4 71.4 イ 実施校の率 % 100 94.4 100 100 100 ウ エ オ

(2) 総事業費の推移		単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0	0	0
	事業費計(A)		千円	750	850	810	810	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	0
		延べ業務時間	時間	35	35	35	35	0
		人件費計(B)	千円	146	142	149	148	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	896	992	959	958	0

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	平成15年度から、子どもたちが農作業の体験をおして「作物を育てる楽しさ」、「収穫の喜び」、「生きるものの力」を学び、食と農業に対する理解を深めるため県の事業として開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	当初は県単補助事業として、各学校1年間だけの事業であったが、平成19年度以降は真岡市食育推進計画に位置づける教育ファームとして、市単独事業で市内全小学校において実施している。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 子どもたちが農作業の体験をとおして「作物を育てる楽しさ」、「収穫の喜び」、「生きるものの力」を学び、農業に対する理解を深めるための事業であり市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 子どもたちが農作業を体験することにより、食と農業に対する理解促進を図るための事業であり公共関与は妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市内全小学校の児童を対象に、食と農業の理解促進を推進しているので適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 小学校の授業時間を考慮すると、最大限の啓発活動であり成果向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 子どもたちに対し、食と農業の理解を促す機会が無くなるので廃止休止はできない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？ ・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 最小限の経費であり削減余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 最小限の人件費であり削減余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 事業の目的を達成するため必要な経費であり学校も負担している。 また、市内全小学校を対象としているので公平・公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 各小学校の状況を考慮した交付金の算定をすべきである。																							